

学部名	保健医療福祉学部	学科名	理学療法学科
-----	----------	-----	--------

理学療法学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	医学ならびに理学療法に関する専門知識を身に付け、医療現場で理学療法の対象となる人々の臨床的課題を発見、分析、解決していく能力を習得し、豊かな長寿社会の実現に向けた専門家(プロフェッショナル)としての基本的素養を身に付けている。
DP2	思考・判断	専門家(プロフェッショナル)として、対象者の問題解決に対応できる論理的な思考を習得し、理学療法士として科学的根拠に基づいた判断力を身に付けている。
DP3	技術・行動	理学療法に関する高いスキルと豊かな表現力を身に付け、それを実践していく力、また、対象者から学ぶ姿勢、医療現場で適切に行動していく力を身に付けているとともに、卒業論文を通じて統合した専門知識を臨床や研究で活用していく力を身に付けている。
DP4	態度	医療人としての主体性と創造性、高い倫理性を身に付け、専門的職業人としての使命感と責任感、そして共感的態度を身につけ、卒業後も自ら学び続けていく熱意を備えている。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部署より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。			◎	○
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	卒業後の社会人としての人生に向け、4年間の大学生生活でいかにキャリアを積み上げるかを考え、卒業までの過ごし方を計画(自己のキャリアデザイン)し、実行を始める。 社会が求める人間像(自主性、責任感、協調性、教養、分別等)を学び、自己分析力を身につけ、卒業までの各節目に常に自己分析をし、その時点で何を身につけるべきか、何をすべきかを考えることができるようになる。	△		○	◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自らに適した進路選択を具体的にを行い、就活力を身につけることを目標とする。合同授業は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。各学科の学科単位の授業は、それぞれの進路に対しての具体的な指導等である。またキャリアポートフォリオを就活に活かせるようになることを目指す。			◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	情報のデジタル化、コンピュータ開発の歴史、コンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と社会問題などについて学習し理解を深める。	◎			
		情報処理Ⅱ	2	1	情報処理Ⅰで学んだ基礎知識をもとにより高度なコンピューティングの要素と機構、ハードウェア、ソフトウェア、文書作成、プレゼンテーション、ネットワーク、情報検索、コンピュータによる問題解決、セキュリティ、情報モラル、情報システムの利用と活用方法を学び社会で活用できる能力を養う。	◎			
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	英文法の復習と語彙力の強化する。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げ英語力を養う。	◎			
		英語Ⅱ	2	1	主な内容は英文法の復習と語彙力の強化である。英文法は、英語での自己表現に最小限必要な文法事項を中心に、練習問題を解いたり、課題英作文や自由英作文に取り組んだりすることで、中学・高校とで習った文法の復習をしていく。また、学生同士のペアワークとして、コミュニケーション練習なども行う。語彙については、大学生の日常生活に結びついた身近な語を多く取り上げる。	◎			
		英語Ⅲ	2	2	この授業はテキストの予習をしっかりとやれば高校以上の難易度の長い文章が読めるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。	◎			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	英語Ⅳ	2	2	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。 教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力を付けてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。	◎			
		フランス語Ⅰ	2	1	テーマ:「こんにちは」「さようなら」などの基本的な挨拶をフランス語で行う。到達目標は、アルファベットを確実に暗誦でき、アトランダムに示された文字を正確に発音できる。発音されたアルファベットを書き取る。数字を1から20まで暗唱する。自分の名前や国籍を言う。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアすること。	◎			
		フランス語Ⅱ	2	1	前期に引き続き、フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。また、自己紹介に必要な表現を学習する。数字を1から100まで言えるようにする。ビンゴゲームで数字を聞き取る練習をする。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎			
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎			
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語の歌を使って、綴り字の読み方、発音、基本的な語句や表現、文法などを学習する。歌詞の発音や意味に加えて、その歌や歌詞の背景や歴史についても知ってもらいたい。分からないことをフランス語で質問する。自己紹介をする。数字を1から100まで暗唱する。覚えた歌を歌う。等の授業中に示された課題をクリアする毎に得点する。	◎			
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。	◎			
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)」5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。	◎			
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎			
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める	◎			
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎			
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。	◎			
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前篇)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。	◎			
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。	◎			

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受験に対しての指導も合わせて行う予定である。	◎				○
	文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。	◎				
	美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方がある。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。	◎				
	音楽の楽しみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々の場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。	◎				
	生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	◎			○	
	生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。	◎				○
総合B群 世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	◎				
	宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	◎				
	倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	◎				
	心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	◎				○
	多文化理解	2	1~4	テーマ：本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標：様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	◎				
社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎				
	民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	◎				
	経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	◎				

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	社会と制度	社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会的な視点から分析できるようにする。	◎			
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ:世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	◎			
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を実例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	◎			
	自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	◎	○		
		物理学	2	1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。	◎	○		
		生物学	2	1~4	[テーマ]:最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]:人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生生物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双子児の1卵性と2卵性の違いを理解する。	◎	○		
		化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。	◎			
		人類生態学	2	1~4	人間社会を理解する上で必要となる諸概念や、さまざまなレベルの社会分析の枠組みを理解する。特に、「社会システム」「文化」「社会組織」「エスニシティ」「地	◎			
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を旨とする。	◎	○		
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得	◎			
総合C群			1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。	◎				

学部名	保健医療福祉学部	学科名	理学療法学科
-----	----------	-----	--------

理学療法学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1 知識・理解	理学療法に関する専門知識を身に付け、医療や地域で理学療法の対象となる人々の抱える問題や課題を発見、分析、解決する能力を習得し、豊かな長寿社会の実現に向けた専門家(プロフェッショナル)としての基本的素養を身に付けている。
DP2 思考・判断	専門家(プロフェッショナル)として、対象者の障がいや生活上抱える諸問題の解決に対応できる論理的な思考を習得し、理学療法士として科学的根拠に基づいた判断力を身に付けている。
DP3 技術・行動	理学療法に関する高いスキルと豊かな表現力を身に付け、それを実践していく。対象者から学ぶ姿勢、臨床場面で適切に行動していく力を身に付けているとともに、卒業研究を通じて統合した専門知識を臨床や研究で活用していく力を身に付けている。
DP4 態度	理学療法士としての主体性と創造性、高い倫理性を身に付け、専門的職業人としての使命感と責任感、そして共感の態度を身につけ、卒業後も自ら学び続けていく熱意を備えている。

※学科のDP達成のために、特に重要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
解剖学Ⅰ	1	1	春	人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学は、その人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合わせて各専門科目を学ぶための基礎とする。 講義内容、(1)分子細胞学(2)組織学(3)発生学(4)骨格系(5)筋系(6)神経系(7)感覚器系(8)内分泌系(9)消化器系(10)循環器系(11)呼吸器系(12)泌尿器系(13)生殖器系	◎	○		
解剖学Ⅱ	1	1	秋	神経症状、神経疾患を理解するためには、神経系の解剖学的知識が必須である。頭蓋骨、脊椎骨、脳・脊髄、神経伝導路、末梢神経、自律神経系、脳脊髄液、脳を栄養する血管などの解剖学的構造と神経症状、神経疾患との関連をプリントとスライドを用いて講義する。	◎	○		
解剖学演習Ⅰ	1	1	春	解剖学の講義で得た知識を実習によってより深め、生きたものとするを目的とする。 解剖学実習では、自分の目で人体及び人体模型の各部を良く観察してスケッチし、自分の手で解剖も行う。実習では単に形態だけでなく、常に各器官、各組織の構造と機能との関連性を念頭において行う。 実習内容、(1)骨学及び筋学(2)神経解剖学(3)内臓学(4)組織学(顕微鏡による観察)(5)動物解剖	◎	○		◎
解剖学演習Ⅱ	1	1	秋	人体の構造や仕組みについての基礎的事項から臨床に生きる知識へ、生理学的機能を考慮しながら理解する。将来リハビリテーションに携わるうえで、実践的な病態構築ができるような知識を身につける。解剖学の基礎知識をベースとして、生理学や運動学と関連付けながら講義を行う。	◎	○		◎
生理学Ⅰ	1	1	春	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成する」ことを到達目標とする。	◎	○		
生理学Ⅱ	1	1	秋	医学の基礎知識として、「からだの働きとしくみを学び、生体の巧妙な調節機能を理解する」ことをテーマとし、臨床医学、作業療法学を学ぶ上での「基礎知識の習得、生体の機能を理解する上での思考パターンを形成する」ことを到達目標とする。	◎	○		
生理学実習	2	2	春	生理学の講義で得た知識を、「生体を使って実際に実験を行って、生体現象を肌で感じ、生きた知識とすること」をテーマとし、この過程で得た「科学的な思考力を養うとともに、実験データのまとめ方、レポートの書き方などを身につけること」を到達目標とする。	◎	○		
運動学Ⅰ	1	1	秋	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。本講義は、主に上肢帯と上肢および手指機能に関する講義を行う。また、後半では姿勢と歩行に着目し、基本的歩行能力および歩行機能に関して深く追求する。	◎	○		
運動学Ⅱ	1	2	春	運動のバイオメカニクスや解剖生理学的な知識を習得していても、実際の臨床に生かすことができない場合は意味がな。また、臨床では障害や疾病を有する人体を対象とするので、習得した知識をどのように応用するのか、自分で考えることができるよう実習を行い生きた運動学を身につける。	◎	○		
身体運動学実習	1	2	春	身体運動学とは人間の体の運動のしくみを研究する学問であり、力学と解剖学がその基本となる。これを理解したうえで、実際の人間の正常運動を運動動作分析の手法を用いて解析する。運動動作課題にもなう身体の動きを目で確かめ、種々の動作分析機器を用いて計測を行い、記録分析する。 具体的には1.体の重心、2.筋電図、3.関節モーメント、4.呼吸と代謝、5.加速度と力、歩行分析などのテーマについて実習を行う。	◎	◎	◎	△
運動発達学	1	2	春集中講義	出生から1歳まで、子どもが運動機能を獲得していく過程、および運動機能の発達と密接に関連する認知機能・遊び・食べる機能・感情の発達について学ぶ。	◎	○		
人間発達学	1	1	春	「人間発達学をリハビリテーション専門職の視点から学ぶ」ことが授業のテーマである。 到達目標は、胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会的な機能の発達を説明できるようになることである。	◎	○		
病理学	1	2	春	病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を学ぶ。医療に携わる者にとって、どんな職種であれ必要不可欠な学問である。本講義では病理学的な考え方を身につけ、臨床医学をさらに理解できることを到達目標とする。	◎	○		
臨床心理学	1	2	春	テーマ:人のこころの仕組みについて理解し、心理援助が必要な人々への心理学的援助に関する知識や方法を学ぶ。 到達目標:臨床心理学の基礎的な内容を理解し、心理援助に応用できる知識と実践的な態度を身につける。	◎	○		
内科学Ⅰ	1	2	春	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
内科学Ⅱ	1	2	秋	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。	◎	○		
整形外科Ⅰ	1	2	秋	生活水準の向上、医療の進歩により、日本の平均寿命は男女ともに世界の1,2を保っている。しかし、ただ年齢を重ねるだけでなく、質の高い生活をしたとの当然の欲求や公的医療費のひっ迫の問題もあり、健康寿命の延伸が求められている。また、生活を楽しくするためにスポーツへ参加する人も年々増え、運動器障害に関する関心は高い。本講では総論として、運動器の解剖、症状、画像を通して整形外科疾患の病態を考え、治療、予防について論じる。	◎	◎	○	△
整形外科Ⅱ	1	3	春	本講では、実際の臨床症例を提示しながら、脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢疾患、筋・靭帯・腱・骨の外傷、スポーツ外傷・障害など個々の整形外科疾患の症状、検査、画像診断、病態、治療、予防について解説し、臨床実習、卒業後の臨床現場で応用できる力を養う。	◎	◎	○	△
臨床神経学	2	2	春	この授業の目的は、神経症状の検査法(神経診断学)と各種の神経疾患の臨床像(神経病学)の理解であり、国家試験に対応できるレベルの知識の習得を到達目標とする。このレベルは実際の医療現場で患者を診察するのに必要な最低限度の知識である。	◎	○		
小児科学	1	2	秋	テーマ:小児の発達特徴と小児科疾患の病態生理及びその特異性を学ぶ 到達目標:小児期の成長と発達の特徴を理解して、胎児から乳幼児、学童、思春期への連続性と各時期における疾患特異性を理解する 小児疾患の病態生理を理解し、その特異性も学ぶ	◎	○		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
精神医学Ⅰ	2	2	春	リハビリテーションに関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、接し方やリハビリテーションの方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用すると同時に、毎回授業の終わりにはミニテストを行い、授業の理解を深めるようにすると同時に、評価にも反映します。	◎	○		
臨床薬理学	1	2	春	「薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について」をテーマとする。薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。すまわち、薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗菌剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬等の作用機序、有害作用、臨床応用等について習得することができる。	○	◎		
公衆衛生学	1	2	秋	公衆衛生活動の目的は、その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気や健康障害を起りやすくしている環境や制度に注目する。身体活動や生活機能を個人の身体的精神的能力だけではなく、その人の持つ社会的能力やその人の暮らす社会の機能に注目して評価し働きかけようとする活動であり、学問でもある。また、現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行	○	◎		
臨床栄養学	1	2	秋	健康と栄養との関わりについて理解し、食生活のあり方について考えることをテーマとする。到達目標として①栄養素の体内での働きについて理解する。②健康の保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解する。③疾病と栄養の関係について学び、疾病の予防・治療・増悪化防止のための栄養食事療法について理解する。	◎	○		
一般臨床医学	1	3	秋	近年医療が急速に進歩する中で、専門分野以外の外科・産婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科等について、基本的な初期医療(プライマリーケア)に対応する能力の重要性が指摘されている。本講義ではそれらの基本的な考え方、知識を習得し、対応できる能力を高めることを到達目標とする。	◎	○		
救命救急医学	1	3	春	医療・福祉現場における臨床実習や卒業後の臨床現場では日常的に多くの脳・神経疾患、循環器・呼吸器疾患等を有する患者や四肢に障害を持つ患者に接する。それらの患者は病状が急変し、救急処置を迫られる現場に直面する可能性がある。また、病院内には多くの感染症患者がおり、院内感染が問題となっている。これらに対処できる、救急法と滅菌・消毒についての知識を学ぶとともに技能を習得する。	○	◎	○	△
保健医療福祉概論	1	1	春	保健医療福祉の根底となる理念を理解した上で、現代社会において保健医療福祉を学ぶ重要性を考え、また、保健医療福祉とは何かということの理解を深めさせる。そして、保健医療福祉サービスを提供する上で、基盤となる概念を理解し、保健、医療、福祉分野における諸問題について考察できる力を養い、そのことによって、それぞれ個々人の保健医療福祉への関心と問題意識を高めることができるよう講義する。	◎	○		
リハビリテーション概論	1	1	春	4年間にわたり作業療法士になるための教育を受ける上で基本となるリハビリテーションの歴史、理念をまず身につける。その上で、秋学期の「リハビリテーション医学」を学ぶための基礎的知識を身につけることを目標とする。学生は大学で学ぶべき内容の概観を得ることができる。			○	◎
リハビリテーション医学	1	1	秋	春学期で学習した「リハビリテーション概論」の基礎知識を基に、2年次以降開講される専門科目をスムーズに学習できるリハビリテーションに関わる基礎知識を身につけることを目標とする。学生はリハビリテーションの対象となる主たる疾患の知識を身につけることができる。	○	◎		△
医療データオペレーションⅠ	2	1	春	保健科学を目指す学生が必要とする、必要最小限度のコンピュータ技術を実習形式で講義する。具体的には、春学期はワードプロセッサを中心に講義する。また、Webブラウザ、電子メール、FTP等のネットワークアプリケーションの使い方も講義する。	◎	○		
医療データオペレーションⅡ	2	1	秋	保健科学を目指す学生が必要とする、必要最小限度のコンピュータ技術を実習形式で講義する。具体的には、秋学期は表計算ソフトを中心に講義する。また、Webブラウザ、電子メール、FTP等のネットワークアプリケーションの使い方も講義する。	◎	○		
実践医療英語	2	2	秋	授業では分野で必要とされる専門用語の習得と患者さんへの指示に使用する基本的な表現や利用する器具の名称についての学習を行う。難解な専門用語は繰り返し学習する必要があるのでクイズや小テストを利用して身につくように工夫する。また、会話のペアワークも行う。	◎			
老年学	1	3	春～秋	世に老いることの楽しさ、有意義な点を述べた本は多くみるが、本当は老いるということは辛くて、さびしくて、悲しいことである。この事実を年をとるにつれて体の機能がいかに低下するかということを通して理解するのが本講義の目的である。	◎	◎	○	△
医療データ解析演習	2	3	秋	さまざまな臨床データを集計・分析し、さらに与えられたデータから予測可能な結果をシミュレートすることを学んでいく。このような科学的処理の多くは、スプレッドシート・プログラム(Excel)の集計・分析機能および種々の関数群を駆使することによって可能であるので、それらの機能の使用法を実際の臨床データを用いて徹底的に学んでいく。			○	◎
理学療法学	1	1	春	理学療法の歴史や概念、理学療法士の役割や方法、社会・医療人として必要な資質や情報管理、理学療法士を取り巻く法律関係、理学療法士の業務と国家行政や施策の関係を学習する。さらに、将来の理学療法士としてふさわしい素養・知識そして品格を身につける。	◎			○
理学療法基礎演習Ⅰ	1	1	春	理学療法学習に必要な基本的な文章の読解力や基本的な数学の計算方法や高校程度の生物学を習得する。また、理学療法の基礎となる人体の構造について少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎			○
理学療法基礎演習Ⅱ	1	1	秋	国家試験に必要な文章の読解力や計算の方法や生物学的知識を習得する。実際に過去の国家試験を教材とする。また、理学療法の基礎となる人体の構造について少人数による調べ学習、討論を行い、臨床医学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎			○
理学療法基礎演習Ⅲ	1	2	春	理学療法の対象となる疾患・臨床症状(骨関節疾患)について、少人数による調べ学習、討論を行い、理学療法評価・治療学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎			○
理学療法基礎演習Ⅳ	1	2	秋	理学療法の対象となる疾患・臨床症状(神経疾患・内部障害等)について、少人数による調べ学習、討論を行い、理学療法評価・治療学を学ぶ上で必要な知識を修得する。	◎			○
理学療法総合演習	2	4	秋	4年次までに学んできた基礎医学、臨床医学および理学療法専門科目について知識を整理統合し総合的に理解する能力を身につける。本科目は理学療法士国家試験の対策につながる科目であり、講義に加えて自己学習を課す。自己学習においては班を編成し、学習計画に則った徹底的な予習、復習を基に学習を進める。自らの学力を把握し不足する知識を確認するため理学療法士国家試験と同形式の試験を複数回定期的実施する。	◎	○		
理学療法管理学Ⅰ	1	3	春	理学療法士として医療、福祉関係機関で勤務するためには医療保険制度、介護保険制度をはじめ障害者、高齢者に関わる法制度を十分に理解しておかなければならない。また、対象者の個人情報保護、プライバシーを守るためには個人情報保護法の理解だけでなく、専門職として高い倫理観が要求される。本講義では理学療法士として必要な法制度の理解とともに、臨床実習前に必要な理学療法士としての倫理観の育成を目的に講義、グループワークを行っていく。また、経営的な視点から教育論に関しても講義を行う。	△	○		◎
理学療法管理学Ⅱ	1	3	秋	理学療法は医師、看護師、事務系職員などの協力関係があっなくてはじめて良質なサービスが提供できる。また、理学療法部門は複数の職員で業務を分担する機会が多い。複数かつ他職種の間が協同して活動する際には、活動を円滑に行うための知識とチームを組める技術が必要となる。そこで病院理学療法部門の組織、管理(人事、総務、労務)、業務(処方関連、診療、記録)、職員教育と生涯学習、経営などの理論と実際について、演習を中心に教授する。理学療法士としての発展的ビジョン、経営・管理者としての思考、臨床患者様の病態や障害を正しく評価できなければ、正しい治療的介入が実現できないこととなる。本講義では、評価の意義とともに理学療法的評価に関する正しい知識と技術の学修を旨として「評価方法の基礎的な技術を習得すること」を主たる目的として開講する。本講義を通じて学生が確実に身につける実技は、「形態測定」「関節可動域計測」「徒手筋力検査」である。	△	○		◎
評価学概論	2	2	春		◎	○	○	△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
理学療法評価学	1	2	秋	本授業は、大きく分けて「検査学」「動作分析」「理学療法評価」の3つから構成されている。理学療法評価は、各種検査や情報収集によって得られた所見やデータについて「統合と解釈」を行う事により対象者の障害像を浮き彫りにし、臨床介入上の意志決定を行う過程を指すものである。本授業では、第1回目「理学療法評価総論」で理学療法評価の基本的考え方を修得する。「検査学」の授業では、理学療法における代表的な検査を取り上げ、理論に裏打ちされた確かな技術の修得を目指す。「動作分析」の授業では、正常人や中枢神経循環・呼吸器疾患の基礎医学的知識(解剖学、生理学、病理生理学、内科学など)を時間をかけて十分に理解する。その上で循環・呼吸器疾患の基本原則とプロセスを学んでいく。特に理学療法評価に必要な様々な臓器・肺疾患のX線・CT画像の特徴を理解する。	○	○	◎	△
循環呼吸器理学療法評価学	1	2	秋	レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価することはリハビリテーション医療を行う上で極めて重要で欠かすことのできないものになってきている。セラピストにとっては身体所見を取るうえで念頭に置くべき基本となる情報である。古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで教授するとともに実際にレントゲンフィルムを手にして読影の実習も行う。	◎	○		△
画像診断学	1	3	春	それぞれの運動器疾患の特徴としての筋、骨格、関節、神経障害および動作、歩行能力障害などについて学習する。また、グループワークや実技演習を取り入れ、評価時の具体的なオリエンテーションの方法から解釈までを行う。検査結果から解釈するボトムアップ的な解釈のみでなく、動作から障害像を把握していくトップダウン的な考え方も学習し、模擬症例に対する評価項目の立案、実施、結果の解釈までを行う。	◎	○	△	
運動器理学療法評価学	2	3	春	【春期】は中枢神経系障害の仕組みについて中枢性運動麻痺の形態をはじめとし、感覚障害、各種反射障害、歩行・セルフケア動作障害などについて学習する。また、中枢神経系疾患の理学療法評価を演習して問題点の抽出までを理解し、評価に関する理学療法推論を習得する。グループワーク演習を取り入れ、患者像やハンドリング技術の体得に努める。	◎	◎	○	△
神経系理学療法評価学実習	1	3	春	これまで学んだ理学療法に関する知識や技術を礎に、臨床現場において必要な情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出までの一連の過程を学ぶ。理学療法評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。	◎	◎	○	△
理学療法臨床評価演習Ⅰ	1	3	春	これまでの学内における知識・技術に対する学習内容ならびに3年次の臨床評価実習の経験を踏まえて、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の過程を系統的に学ぶ。さらに、問題点の推測、必要な評価・問題点の再検討、目標・治療計画の作成を通して、問題点を解決するための基本的な考え方を身につける。なお、理学療法評価を系統的に学ぶうえで、臨床技能評価などにより到達度を確認する。		△	◎	○
理学療法臨床評価演習Ⅱ	1	3	秋	理学療法の基礎である運動療法の基礎を総論的に学習し、治療の理論や概念を理解する。運動療法学総論は、運動器の疾患や障害の測定と評価の延長にあり、また運動器理学療法学実習の架橋に位置する。様々なメディアを用いて臨床像を浮きぼりにする。	○	◎		△
運動療法学総論	1	2	春	各物理療法について、目的、効果と適応、手順、リスク管理を中心に教授する。	◎	○		
物理療法学	1	2	秋	物理療法学で学んだことを基に適応、禁忌を再確認し、各物理療法機器の操作方法を身につける。	◎	○		
物理療法学実習	1	3	春	この講義では、脊椎・骨髄の主要な解剖と機能を理解し、神経組織との関係を把握し、現在骨髄疾患の対象は多岐にわたっている現状を踏まえ、乳幼児から超高齢者の骨髄疾患まで幅広く、さらに多様化、重篤化、重複化する状況に対応できるよう指導する。また骨髄損傷の病態・障害像を把握して、骨髄損傷の運動療法や日常生活活動について教授する。また骨髄疾患の基礎的理学療法の処方、実践が出来ることを目標とする。	◎	◎	○	
神経系理学療法学	1	2	秋	【秋期】は脳卒中片麻痺患者を中心に具体的な運動療法手技について学習するとともに、春期の内容を踏まえ、有限の評価情報から理学療法プログラムの立案化を図るトレーニングを行う。また、グループワーク演習も取り入れ、チーム医療における協調性や責任感や報告力を養う。以上は、各疾患や症例固有の理学療法介入モデルを構築することを通じて、知識を実際の現場で用いる技術と高度な接遇態度を学ぶと共に、臨床家の患者過程に近づくことをめざすものである。	◎	◎	○	△
神経系理学療法治療学実習	1	3	秋	循環呼吸器疾患の評価と治療技術について学ぶ。特に呼吸器理学療法に関しては、リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域訓練、排痰法、運動療法と詳しく学ぶ。特に喀痰吸引等実習として、「たんの吸引等」実施に必要な知識・スキルを身につける。	◎	○	◎	△
循環呼吸器理学療法治療学実習	1	3	春	「運動器理学療法評価学」の知識を基礎として、代表的な運動器疾患に関しての治療プログラム立案、実施、リスク管理方法を学習する。講義の中では行動科学、運動学習理論を踏まえた対象者への説明方法、治療者として良好な態度についても実践できるようにしていく。また、実際の対象者の画像、生化学検査結果、映像、理学療法評価結果を用いて臨床的推論、対象者の特性を考慮した介入の方法についても学習する。	◎	○	◎	△
運動器理学療法治療学実習	1	3	秋	前半はADLの定義と概念を踏まえた上で、ADLを構成する個々の活動の評価や問題点の抽出方法、自立に向けた介入方法の基礎を教授する。同時に、地域生活の自立を指す「生活関連動作(手段的ADL)」を取り上げ、社会参加の促進や障害予防の視座に立った支援について理解を深める。後半は、疾患別の自立支援について代表的疾患である「脳血管障害」「骨髄損傷」を取り上げ理解を深める。	◎	○	△	△
生活技術学	1	2	春	本講義では、グループワーク(GW・実習・レポート・プレゼンテーション)を多用すると共に、反転授業や当日レポート本授業において、第1回は2年次配当「生活技術学」で取り上げた疾患別の自立支援の続きとして、関節リウマチといったADL支援が重要とされている骨関節疾患を取り上げ教授する。以後第2回より10回までは、基本動作や歩行・車椅子の介助方法について、運動力学といった理論を踏まえつつ、技術の習得に主眼をおいた実習を行う。第11・12回ではセルフケアを取り上げ、評価と介助方法について実技を交え教授する。最終的に、長期臨床実習である「臨床評価実習」を見据えたと共に、ADLに関する授業の総まとめとして、「ADL読書の義肢装具の構造と役割を理解することを目指す。これまで学修してきた機能解剖学や運動学の知識に関連づけながら義肢装具の意義・目的についての知識、種類・部品と適応に関する知識を身につける。3年後期の臨床評価実習を意識し、1年前より理学療法の基本的な態度と技術を養う。臨床実習で必要な主体性や協働性、メタ認知能力・他者に対する共感力等の基本的な態度を養う。そのうえで、理学療法の治療技術として義肢装具・福祉用具・環境整備について学修する。	◎	○	△	
生活技術学実習	1	3	春	義肢装具の構造と機能を理解したうえで、使用に関して患者と家族・他職種への指導ができるレベルをめざす。疾患や病態に対する適応、選択・調整に関する知識、装着方法や生活関連動作に関する指導方法、作製・修理に関する制度の知識を身に付ける。義肢装具学で学んだ知識を臨床実習で使えるように体で覚える学修を行なう。講義の前半は教室で授業を行い、後半は実習で体験しながら技術や技能を養う。切断者をモデルにして臨床実習に必要な臨床能力について理解を深める。	○	○	◎	△
義肢装具学	1	2	秋	パーキンソン病をはじめとした神経筋疾患を抱える方に対し、理学療法士として何が出来るのか、運動機能障害や生活機能障害をどのように捉えていけばよいのかについて、小グループ同士のディベートをおこなう。ディベートの結果は聴講者および教員によって採点され、翌週にディベートの結果、およびそのトピックに関するフィードバックが行われる。	○	◎	◎	△
難病理学療法学	1	3	春	障がいをもつ子どもへの理学療法は、療育の一翼にならう。療育とは、子育てである。従って、特に母親の気持ちや理解し、母親の思いに寄り添いながら、理学療法士の知識を通して支援していくことが基本である。また、重い障がいのために言葉をもたない子どもに対しては、彼らのこころ(認知と感情)に共感し、彼らが本当は何を求めているのかを理解しようとするのが大切である。そのために、運動機能を中心に認知と感情、そしてそれらを通して人間関係を築くコミュニケーション、さらに生命に直結しつくさず機能や呼吸機能の評価「スポーツ障害」では、スポーツの競技特性を理解した上で、スポーツ外傷・障害の発生機序について整理する。その上で、スポーツ障害の予防・再発防止が実践できるように、基礎知識と技術を習得する。	◎	○	◎	△
障害児理学療法学	2	3	春	研究に対する基礎的な知識として、研究デザインの大切さ、理学療法領域で用いられることの多い検査測定方法の選択の仕方、統計手法について教科書、講義を通じて整理していく。授業の後半にはグループ毎にテーマを決め、実際に情報収集・データ測定・結果解釈・発表の一連の作業を行ってもらう。	○	◎		
スポーツ障害	1	3	秋	4年次における卒業研究の具体化を目指し、研究活動に必要な研究的思考と基本的な知識・技術を修得する。学生は配置されたゼミ担当教員の指導の下に、研究テーマを設定し研究を進める。卒業研究の導入となるこの科目では、先行研究のレビューに必要な論文クリティークや先行研究の到達点を整理する手法を修得する。また課題発表を通して基本的なプレゼンテーション能力を修得する。	○	◎	◎	
理学療法研究法	1	2	秋		○	◎		
卒業研究演習Ⅰ	1	3	春		○	◎		

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
卒業研究演習Ⅱ	1	3	秋	卒業研究演習Ⅰに引き続き、4年次における卒業研究の具体化を目指し、研究活動に必要な実践的な知識・技術を修得する。ゼミ担当教員の指導の下に、研究テーマを設定し研究の具体化する。演習Ⅰで修得した研究の基礎的知識と技術を手がかりに、研究計画の作成や、測定・データ収集に必要な具体的技術を修得する。また研究成果をわかりやすく伝えるための口頭発表・プレゼンテーション能力を修得する。		○	◎	
卒業論文	1	4	秋	3年次における卒業研究演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、卒業研究を成果としてまとめ、学会形式での発表課題に取り組み、基本的な研究遂行能力とプレゼンテーション能力を修得する。ゼミ担当教員の指導の下、卒業研究のテーマに沿った先行研究のレビュー、研究計画書の作成、データの収集・分析という一連の過程を経て、卒業研究を完成させる。ゼミの開催場所や日程については、担当教員と協議の上で決定する。		○	◎	△
理学療法臨床技能演習	1	4	秋	この講義では仮想症例を題材にして、シナリオの提示→仮説構築→情報の提示→説構築という流れに沿って4コマ分／一症例のペースで進めていく。また自宅学習として、1症例につき、2枚のポートフォリオシートを作成する。ここでは、臨床思考図を用い、臨床思考図では、症例の運動機能障害をいかにとらえ、どのような関連因子が考えられるのか、どこに介入していけばよいか、介入プログラムは何か、といった着眼点を可視化することにより、臨床推論能力を高めたい。		△	○	◎
リハビリテーション工学	1	4	秋	理学療法士・作業療法士に必要な福祉機器を中心に、リハビリテーション工学の基礎及び応用の教授、新しい福祉機器の紹介、リハビリテーション機器に関する実習・グループ討議を行う。	◎	○		
ヘルスプロモーション	1	4	秋	高齢者の健康増進、転倒やフレイルの予防といったヘルスプロモーションを実践する上で必要な、身体機能、精神機能、心理社会的な特性、そして社会的動向や制度を総合的に理解し、リハビリテーション専門職として適切な指導や支援介入を実践できることを教授目的とする。講義の他に一部実技も含めた内容で構成され、理学療法学科・作業療法学科の各6名の教員によりオン・オフ形式で行なう。			◎	○
地域レクリエーション演習	1	1	春	本講義では、いわゆる「福祉レクリエーション」の領域に軸足を置いた内容を教授する。授業では特に「地域在住の中～高齢者を対象とした心身の健康における維持・増進」ならびに「通所系・入所系施設を利用されている対象者におけるQOLの向上」に資する内容(理論・実技)に視座した教育を展開する。		◎	○	
地域理学療法学	1	1	秋	吉備国際大学の所在地である岡山県高梁市は「中山間地域」という地域属性であり、高齢化率の著しい増加とともに「通いの場の少なさ」に伴う地域在住高齢者の方々における「ICFでいうところの参加」の機会の減少が懸念されている。本講義では、高梁市介護保険課が主幹となって運営されている複数の地域包括ケアシステムに関連している事業を題材として、特に「中山間地域における理学療法士の存在意義やかかわり方」について、中山間地域事業への参加体験や見学を交えながら学びを深めていく。		◎	△	○
地域における生活環境学	1	3	秋	要介護状態や要支援状態にある方が家庭や地域社会において、可能な限り自立した生活や社会参加の促進を図っていくためには、身体の障害そのものに対する支援介入だけではなく、生活環境に関する評価とアプローチが不可欠である。本講義では「生活環境に関する基本的概念」をふまえながら「福祉用具の導入」や「住宅改修」を前提とした評価と具体的なアプローチ方法について教授し、理学療法の対象となる代表的な疾患事例を取り上げながら「製図方法」についても学習する。また、生活環境支援を保障する各種保健福祉制度	◎	◎	○	△
国際貢献・地域理学療法学	2	3	秋	高齢化社会を迎える現在では、病院のみならず地域での理学療法士の活動の必要性が増している。それは国内に留まらず、青年海外協力隊などの国際貢献の必要性も示している。本科目では地域理学療法学概念だけでなく、実際の国内外での活動内容や事例を交えながら地域理学療法学についての理解を深める。また、他職種の活動内容も紹介しながら、対象者支援のための他職種と連携した課題解決方法をグループワークなどを用いて討論していく。講義の中では地域理学療法学の実態を調査するためのフィールドワークも取り入れ	◎	◎	○	△
臨床見学実習	1	2	秋	実習内容(1)見学(施設見学・治療見学)、(2)対象者に接する体験(搬送などの手伝い、評価治療の簡単な補助)、(3)評価の初歩的経験(カルテからの情報収集、簡単な検査の経験、動作分析の経験)。1施設に2名～4名程度を配置する。実習期間は1週間、最終日にはセミナーを開催し、各施設間での見学内容について報告会を行う。実習での課題(1)ディレクターの記載、(2)感想文の提出(実習指導者宛)、(3)レポートの提出(大学宛)	○		△	◎
臨床評価実習	4	3	春	これまでの学んだ理学療法に関する知識や技術を基礎に、臨床現場において実習指導者の指導監督の下、情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案までの実習を行う。また実習指導者の判断で実行可能であれば初歩的な治療を体験する。本実習の目標は、理学療法評価の一連の流れを経験し、学内で学んだ知識や技術の習熟を図り、理学療法対象者の全般的な理解が出来るようになる事である。		△	◎	○
地域理学療法学実習	1	3	秋	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設(訪問看護ステーション、介護老人保健施設、医療機関の在宅訪問指導、障害者施設等)での見学実習を中心に学ぶ。		△	◎	○
総合臨床実習	16	4	春	これまでの学内における知識・技術に対する学習内容ならびに3年次の臨床評価実習の経験を踏まえて、臨床実習指導者の指導の下で「情報収集、観察、検査・測定、統合・解釈、問題点の抽出、目標設定、治療計画の立案、治療の実施、検証までの一連の流れが行えるようになる。臨床現場で求められる基本的な理学療法が模倣レベルで可能となるとともに、理学療法のプロセスを理解し、論理的に考えることの重要性について認識する。なお、技術等に関して実習前に臨床技能評価等による評価を行い、総合的知識及び基本的技能		△	◎	○